

長崎の近代化遺産の保存と活用に関する研究

長崎大学工学部 学生会員 植木 達也 長崎大学大学院 学生会員 弦本 和眞
 長崎大学工学部 学生会員 浦郷 尚弘 長崎大学工学部 フェロー 岡林 隆敏

1. はじめに

長崎は、鎖国時に唯一の貿易港として都市が発展し、中国や西洋の文化を多く取り入れてきた。また、戦時中には日本国内でも重要な軍事都市であったことから、重要文化財や近代化遺産が数多く存在する。近代化遺産の意義は、単にその地域の歴史を知るということに留まらず、土木技術の発展過程として参考にできるものである。しかし、社会的にはあまりその価値や意義が知られていないのが現状である。

そこで本研究では、市民に近代化遺産への興味や関心を高めるために、それらの保存および今後への参考資料として活用できるよう、近代化遺産のデータベース（以下DB）およびホームページ（以下HP）を作成した。また、長崎市の近代化遺産の歴史的・文化的価値から「近代化遺産野外博物館」を提案するものである。

2. 近代化遺産の情報発信

近代化遺産の情報発信方法として以下のものを考案・製作した。

- 1) 長崎県DB: 長崎県には、約500件の近代化遺産が存在している。それらの情報を収集・整理し、簡単に検索出来るよう画像DBを製作した。
- 2) 長崎市の都市形成史と近代化遺産HP: 重要な近代化遺産が多数存在する長崎市について調査を行った。また、近代化遺産ができた歴史的背景を認識するため、長崎市の都市形成史についても調査し、都市形成史・近代化遺産HPを制作した。

3. 長崎県の近代化遺産DBの作成

収集した写真・資料データをもとに Visual Basic6.0 と Microsoft Access を用い、長崎県近代化遺産DBを制作した。図-1にDBの全体構成を示す。DBでは、地図検索画面と構造物種類別検索画面を設けた。地図検索画面、構造物種類別検索画面ともそれぞれ5つの検索項目を設け、選択できるようにした。検索で該当した構造物をリストに表示させ、リスト上にある構造物を選択し表示ボタンを押すと詳細画面が表示される。詳細画面には、構造物名、構造物の現所在地及び旧所在地、構造形式、建設年、そして構

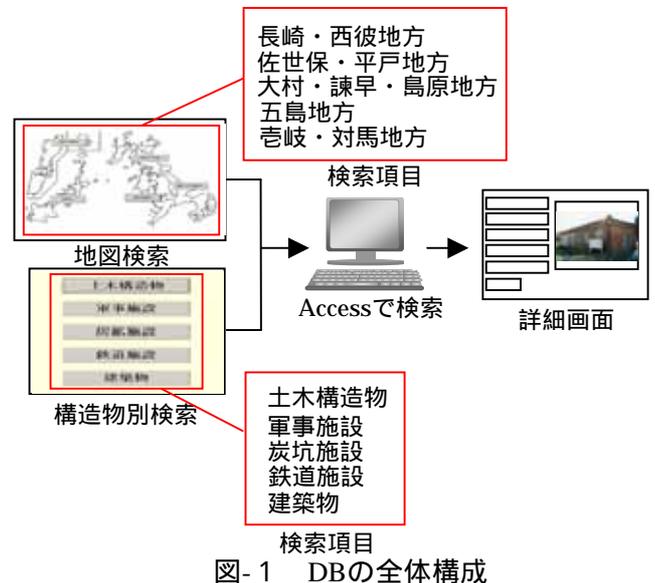


図-1 DBの全体構成

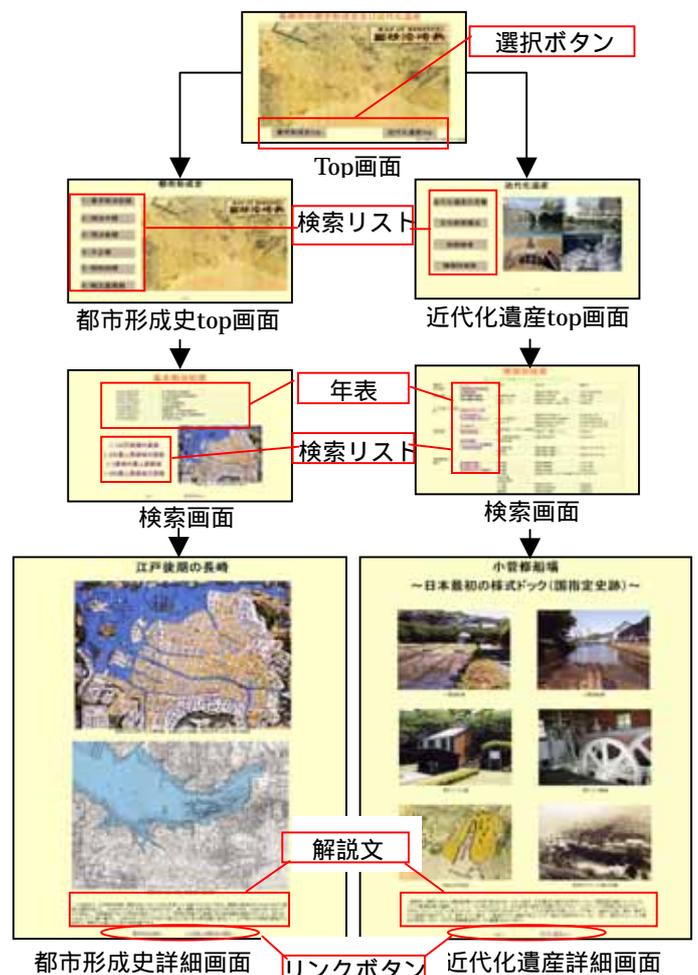


図-2 HPの流れ

造物の画像が表示される。

4. 長崎市の都市形成史と近代化遺産 HP の作成

長崎市の都市形成史・近代化遺産 HP を制作した。図-2 に HP の流れを示す。まず Top 画面があり、都市形成史 Top 画面と近代化遺産 Top 画面を選択することが出来る。都市形成史 Top 画面では「幕末明治初期」「明治中期」「明治後期」「大正期」「昭和初期」「戦災復興期」と6つの時代を選択することができる。また、各時代の出来事を詳しく説明する画面がある。近代化遺産 Top 画面では「近代化遺産の定義」、「文化財保護法」、「地図検索」、「種類別検索」という4つの選択肢を設けた。地図検索では地図上から検索を行えるようになっており、種類別検索では市内の近代化遺産を「港湾施設」、「道路施設」、「上下水道施設」、「産業施設」、「橋梁」、「その他の構造物」に分けて検索を行えるようになっている。地図検索及び種類別検索での検索結果を、近代化遺産詳細画面として表示させ、該当遺産の写真と解説文を掲載した。

5. 長崎市近代化遺産野外博物館の提案

長崎市には、明治から大正までに様々な近代化遺産が作られ、現在も存在し活用されている。こうした近代化遺産は決して復元することができない長崎市特有の資産である。今回の長崎市近代化遺産野外博物館の提案とは、市内中心部に近隣する近代化遺産をネットワークで結び、長崎市近代化遺産野外博物館を創ることである。

野外博物館の利点は、現在野外で保存・活用されている構造物が対象なので新たな閲覧施設を作る必要がない。また近代化遺産を実際に見学でき、肌で感じることができる。

野外博物館の対象は、長崎の近代都市形成期を表現できる12の土木構造物群である。これらは、長崎市の近代化遺産の中でも歴史的・文化的価値を有するものである。図-3 に野外博物館の概要を示す。

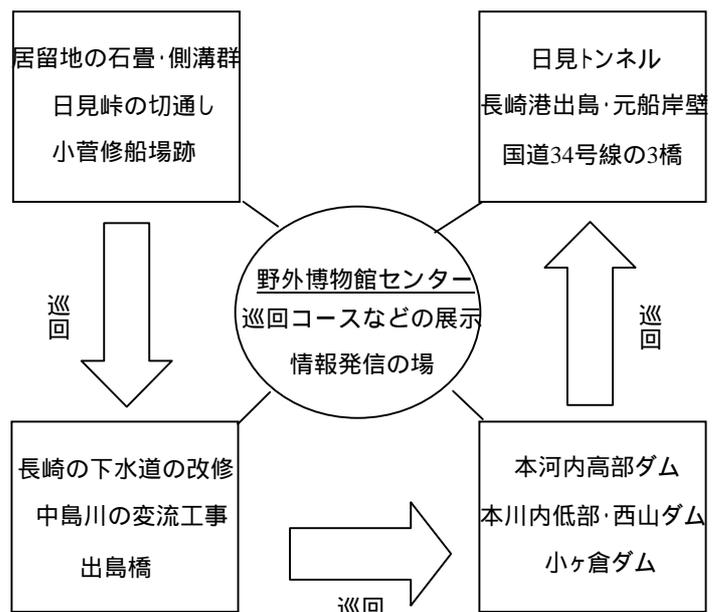


図-3 野外博物館の概要

具体的な提案内容としては、各構造物に対しての案内版、ネームプレートの設置、巡回コースの選定があり、また各構造物の特徴、都市形成史、近代化遺産保存の動向、巡回コース、地図などを展示する野外博物館センターの開設、ガイドブックの作成、コンピューターによる表現などが挙げられる。これにより野外博物館は長崎市の新たな観光資源として利用することができ、街全体の活性化にも繋がると考えられる。

6. まとめ

本研究の成果をまとめると以下ようになる。

- 1) 長崎県の近代化遺産 DB で、県内の近代化遺産に関するデータの整理・紹介を行ない、情報発信の基礎を制作することができた。
- 2) 長崎県の中でも重要な近代化遺産が多数存在する長崎市について調査した。また近代化遺産が出来る背景となった都市形成史についても調査を行ない、長崎市の都市形成史・近代化遺産 HP を制作した。
- 3) 今後の課題として長崎県の近代化遺産 DB と長崎市の都市形成史・近代化遺産 HP を連動させ、発信することにより、長崎県全体の近代化遺産の重要性を認識してもらい、保存・活用を促すツールとしての利用が挙げられる。
- 4) 長崎市近代化野外博物館の提案を行ったが、近代化遺産はいくつかの機関や企業が分散して管理しているため、今後実現に向けては各機関との協議が必要である。

<参考文献> 長崎市土木部道路建設課：長崎市の歴史的近代土木構造物,第6章,1995.3